

令和2年度 生徒募集要項

推薦入試 1月17日(金)
一般入試 1月24日(金)

生徒募集要項

募集定員	普通科(男・女)			医療福祉科(男・女)	看護学科(男・女)	備考
	特進課程	教養課程	普通課程	40名	80名	
願書受付	令和2年1月6日(月)～1月14日(火)(土・日・祝日を除く)					
出願書類	入学願書・調査書もしくは推薦調査書(私学協会統一書式)					
選考日	推薦入試 1月17日(金)			一般入試 1月24日(金)		
選考方法	学	一般入試				推薦入試
	科	国語・数学・英語・理科・社会・面接				1 書類選考(全科・課程) 2 面接(全科・課程) 3 学科試験(看護学科のみ) 国語・数学・英語(合計60分、150点満点)
合格発表	推薦入試 1月21日(火)			一般入試 1月29日(火)		
入学手続	推薦入試・一般入試とも令和2年1月30日(木)から2月10日(月)17時まで。但し普通科(教養・普通課程)で公立高校との併願合格者については、公立高校発表翌日17時まで延期できます。(発表日が金曜日なら月曜日まで)					

Discover Yourself

① 推薦入試
令和2年度生徒募集要項を紹介いたします。
全科・課程対象。本校第一志望で、所定の推薦条件を満たし、中学校からの推薦を受けたうえで入試です。中学校からの書類と面接で合格を決定しますが、看護学科だけは国語・数学・英語の基本的な学科試験があります。(合計一五〇点満点、六十分)

② 一般入試
全科・課程とも専願もしくは併願で受験できます。特進課程は五教科(国語・数学・英語の各一〇〇点と理科・社会の各五〇点、合計四〇〇点満点)、他の科・課程は三教科(国語・数学・英語の各一〇〇点、合計三〇〇点満点)の学科試験があります。また、普通課程・教養課程の併願受験者以外は、面接試験もあります。

夢をつくる 確かな自分をつくる



発行所
鹿児島県出水市西出水町
出水中央高等学校
TEL 0996-62-0500
FAX 0996-62-6677
https://izumi.ac.jp
admini@izumi.ac.jp

校訓
「勤規協」
「労律調」

秋の体験入学を実施します！
10月14日(月)祝 10:00～ 送迎バス運行(一部地域を除く)
※夏の体験入学よりも、入試説明会としての内容を重視します。ふるってご参加ください。

後期特進日曜教室開講！(中学3年生対象) 受講料無料
入試問題演習でわかる喜び・解ける楽しさを体験してみませんか？
高校入試問題に対応する学力を身につけましょう。
入試まで、どんな勉強をすればよいか学習方法もアドバイスします！

後期日程
11月10日(国語・英語・数学) 8:00～8:20 受付
11月24日(英語・数学・国語) 8:30～9:40 1教科目授業・個別指導
12月8日(数学・国語・英語) 9:55～11:05 2教科目授業・個別指導
12月22日(国語・英語・数学) 11:20～12:30 3教科目授業・個別指導
1月12日(英語・数学・国語) ※毎回プリント代等を含む実費200円いただきます。
※高校入試問題解説と個別指導を実施します。
※詳細は、本校HPをご覧ください。本校「日曜教室担当」までお問い合わせください。

◎入試説明会実施中！
本校の説明を聞きたい生徒さんや保護者の方を対象に、各地の中学校や塾・公民館等で本校紹介・入試説明会を実施させていただきます。聞きたい方が一人でもいらっしやれば必ず参ります。ご連絡ください。

※奨学金制度
看護学科と医療福祉科には病院施設奨学金制度があります。本校指定の奨学金・施設から入学金と月々の奨学金を受給できる制度で、資格取得後、指定期間(二～四年)勤務すれば返済の必要がありません。
また、普通科(特進課程・教養課程・普通課程)には、学園奨学金制度(※適用人数に制限あり)もあります。これは、本校に推薦・専願入学を希望する生徒で、経済的な援助が必要な生徒に支給が検討されるもので、対象者は、特に人物良好であり、他の模範となる生徒が条件となっています。
来年度は就学支援金の増額も予定されており、いずれの制度も、県の育英会奨学金等と併せて利用できますので、保護者の経済的負担の軽減に役立っています。

第58回 体育祭
～若い力躍動・5年目集大成～
平瀬朱莉さん(医療福祉科三年)の選手宣誓で幕を開けた体育祭は、競技の部において一年生が優勝を飾り、若い力の躍動を感じさせるものとなりました。専門課程では二年生が優勝を飾り、五年目の集大成を見せてくれました。例年三年生が力を発揮する団体競技ですが、クラス対抗大縄跳びでは特進課程一年一組が優勝し、普通課程一年生が二位となり、さらに綱引きでも一年生が他の学年を抑えて優勝を飾りました。

台風十三号の影響で一日順延となった第五十八回体育祭。予行練習を含め前日まで準備ができて、大会当日も予定より一時間半遅れの開催となりました。前日までとは打って変わった猛暑の中、PTA種目を省略し、十三種目での熱戦が繰り広げられました。

一方クラス対抗リレーでは、教養課程・普通課程などの部活動生中心のクラスの活躍が目立ち、男子生徒の少ないハンデをもとせず看護学科基礎課程三年一組が決勝進出を果たす頑張りを見せてくれました。専門課程では、ムカデ競走・大縄跳び・綱引き三種目で二年生が優勝を飾り、三年生が団結力を感じさせてくれました。最終種目専門課程対抗リレーでは一年生がワン・ツー・ファイニッシュし、まさに一矢を報いる走りでした。準備段階から前日まで雨に悩まされた体育祭でしたが、無事に終えることができました。多くの保護者の皆様に声援をいただき感謝いたします。(近野 隼人)

クラスマッチ
～競技・応援ともに全力で!!～
七月十七日(水)一学期クラスマッチが行われました。当日は蒸し暑い一日となりましたが、生徒たちは元気にクラス(チーム)一丸となり、全力で競技に取り組みました。また、互いに応援する姿が見られ、クラスだけでなく、学科・課程や学年などさまざまな絆を深めることができました。各競技の優勝クラスは、以下のとおりです。

- バスケットボール 男子 看護学科基礎課程三年合同、女子 看護学科基礎課程三年二組
- サッカー 男子 普通課程一年、女子 普通課程一年
- バレーボール 男子 看護学科基礎課程三年二組A、女子 看護学科基礎課程三年二組A
- 卓球 男子 医療福祉科三年、女子 看護学科基礎課程三年一組
- ジェンガ 男女 普通科教養課程三年

創立70周年記念(第45回)文化祭
Start～新時代の始まり、70周年と共に～
今年のテーマ「New Era」新時代の始まり、70周年と共に。には、出水中央高等学校の創立七十周年、そして新元号「令和」の始まりの年でもあり、記念すべきこの年を祝うとともに、文化祭を新たな節目のスタートとして、この先の伝統ある数多くの行事を盛り上げていこう、という思いを込めました。舞台部門では、劇・ダンスなどが披露されました。特に吹奏楽部の演奏は午前と午後の二回の演奏が行われ、どちらも体育館に入りきれないほどの観客で大盛況でした。展示部門では、各科・

六月九日(日)、天候に恵まれ、本校体育館及び各教室において、創立七十周年記念(第四十五回)文化祭が行われました。本年度は体験入学が同時に行われ来校者数は一四〇〇名を超えました。その中で各科・課程で一人一人が主役になる文化祭を目指して多くの感動場面が生まれました。

★文化祭大賞
普通科特進課程二年一組 劇「Let's お伽村」
★優秀賞
看護学科基礎課程三年一組 劇「まさかのコラボ!」
日曜劇場「シンデレラと魔法の涙」
普通科特進課程二年二組 劇「新喜劇 すち子は殺し屋」
★展示部門
文化祭大賞
看護学科専門課程一年一組 「妊婦さんの気持ちになろう!!」
★優秀賞
普通科特進課程一年 「LOCAL Present show」
看護学科基礎課程二年 「実習着の戦士!あなたの隅々まで教えてあげよう!!」
医療福祉科 「やらない理由が見つからない、その君 福祉すころくやつてみよう!!」

紫尾嶺
私の母校にOBで作家である故海音寺潮五郎氏の「私の人間美学はここで形成された。」という石碑がある。人間力や学力など高校時代に鍛えられたことが人生の礎となっているという内容である。私は幼少よりサッカーをしてきた。前述の石碑の文をお借りすれば「私の人間美学はサッカーで形成された」と思っている。ハードワークを要するサッカーというスポーツで心身ともに鍛えられた。サッカーを通してという経験をしたことが今の自分の礎となっている。そして今では指導する立場にある。指導する立場になり二十年になるが、教育界全体でもこの十年足らずで指導法の見直しで大きく変化してきた。この変化が良いか悪いかという答えはないと思うが、私の中ではこれでいいのだろうか?という葛藤は今でもある。これからの時代子どもが「これだけのことをやってきたんだ!」という人生における自信になるような達成感を得るための経験を積ませることができのだろうか?と。そうさせるのが難しい時代になってきたと感じる。▼教育というものは家庭教育が最も大事だと思ふ。「子は親の鏡」という言葉があるように、子は親の姿を見て育ち、親にはそれだけの影響力がある。時には親が、時には親よりも他の大人が伝えた方がよいこともある。親を頂点としてその子に関わるさまざまな立場の大人が役割を分担して受け持ち、いろんな角度から教育する。その一端を担うのが学校教育なんだと思ふ。▼ついでに、家庭教育における新たな法が成立するなど、人が人を育てるのに親子間でも気を遣わなければならないのかと感じることもあったが、学校教育に身を置く私はこういう時代でも「私の人間美学はここで形成された」と思える人間を輩出できる教育を目指したいものだ。(近野 隼人)

